

6階建て事務所への採用実現

CLT使用建築物を報告

超高層ビルに木材を使用する研究会

超高層ビルに木材を使用する研究会(稲田達夫会長、事務局は山佐木材)は10月27日、鹿児島市内で第5回総会と記念シンポジウム「大規模木造施設へのCLT利用の課題と展望」を開いた。設計や大学、金融機関などから250人を超える出席者があった。

九州では、CLTパや沖縄県下地島空港など、CLTを採用した

宅や非住宅物件が現在、建設中の物件も含まれて各県に1棟程度ずつそろいつつある。CLT生産を手掛ける山佐木材も、CLTの生産量拡大に向け加工機などを新設した。

シンポジウムでは松尾建設本店(佐賀市)建設本店の新社屋について話した。

新社屋は延べ床面積3657・70平方メートルのS造6階建て事務所棟の2・5階床部分にCLT339立方メートルを使用する。1フロアのCLT床の据え付けを1日半で終えたことなどを報告した。



左から三村氏、麻生氏。登壇者で建築コストやCLT部材の戸建て住宅への使用などを議論した。RAIに「SAMU」筋集成材は、自身が開発した鉄筋集成材

実験を行っている。

同材は、

山佐木材下住工場内に新設されたCLT工場棟の柱や梁にも採用されている。

三村翔氏は、沖縄県下地島に2019年開業を目指す空港施設について説明した。同施設はCLTを屋根構造として現地で表現する。空港ターミナルとして全国初のCLT採用建築物だ。白アリなどに対応するため京都大学監修の下、現在、防蟻

稲田会長や三村氏、山崎氏、竹中工務店設計部構造部門長の麻生直木氏、三菱地所設計構造設計部の海老澤渉氏によるディスカッションも行われた。

2017年(平成29年)11月9日(木)
日刊木材新聞